

Elif Şahin



プロフィール

エリフ・シャーヒンは、13歳という遅い年齢でピアノを始めたにもかかわらず、女性ピアニストとして国際的な舞台上で活躍している。南西ドイツ放送を始めとするドイツラジオ放送局などの放送記録にあるように、ソリスト、または歌曲や室内楽のピアニストとして、ルートヴィヒスブルク、メークレンブルク・フォーアポンメルン、シュレースヴィヒ・ホルシュタインやシュトゥットガルトのリーダーハレなどでの音楽祭へ演奏者として招待され、またオランダ、日本などの国々やアンタリア、アンカラ、イスタンブールのピアノ音楽祭へ客演するなど活発に演奏活動を行っている。更にピアノ教育者としての人気も高く、日本、ドイツ、トルコで定期的にマスター・クラスを開催し、シュトゥットガルト音楽大学で教鞭をとっている。

ピアノのレッスンを始めて既に3年後には生地アンカラにあるハジェテペ大学の国立音楽院で、名門カムラン・ギュンデミア教授の英才クラスに受け入れられる。フランスの伝説的ピアニスト、ラザール・レヴィの弟子である教授は、エリフ・シャーヒンに技術的な基礎と並びヨーロッパの伝統的ピアノ奏法をも伝授した。ドイツ学術交流会DAADの援助により一時期マンハイム音楽大学、トロッシゲン音楽大学並びにシュトゥットガルト音楽大学のコルネリス・ヴィットヘフト教授のもとピアニストとして研鑽を積む。

一部ユダヤ・キリスト教を出自とする音楽一家に生まれたエリフ・シャーヒンは、古典派とロマン派を中心とするバロックから現代曲に至る様式的に広範なレパートリーを得意とする。国際フーゴ・ヴォルフ協会シュトゥットガルトの国際歌唱コンクールにて優勝、「トーマス・ヴィーゼ奨励賞」、オランダでのヴォカリーズ(母音唱法)フェスティバルで優秀賞を得ている。